

「響～文化祭編②～」

校長 江口 満



三年学年合唱実行委員の皆さん

高校生になった。数学に熱中した。数学の参考書と紙とシャーペンがありさえすればいい。何時間でも考えた。解答を見るのがシャクだったので、何日間も寝かせた問題もあった。そして自力で解答した時の喜び。高校時代、やりたい教科の勉強だけがしたかった。興味もない教科をなぜ勉強しなければならないのかといつも疑問に感じていた。そのため国語に割く時間は、ほとんどなかったし興味も薄かった。高校生で習う漢文や古典はまさに暗記科目。漢文や古典の根底に流れる趣などに見向きもしなかった。



文化祭ステージ部門
英語スピーチの様子
折尾愛真高校シャロンカッ
プコンテスト出場「The Ch
inese Legend of How Silk
Cultivation Began」
北筑高校英語暗唱大会出場
「Princess Kaguya」
ハイレベルなスピーチを披
露する二年生の皆さん



合唱実行委員長挨拶

最近、本校の国語科の先生の授業をカメラを片手にのぞくことがある。そのたびに、中学校時代から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に対して、生徒の皆さんはこれほどまでも豊かに学習しているのかと、驚きのあまり授業を見入ってしまう。そして私は、「中学校や高校時代になぜ真面目に国語を勉強しなかったのか。」と後悔する。もっと国語を勉強していたらもっとまじな文が書けたはずだからだ。

前置きが少し長くなってしまったが、実はここからが本題である。文化祭ステージ部門の英語スピーチはスルーしよう。英会話は、全く私には歯が立たないからだ。本題は、箏曲部の迫力ある演奏や文化祭合唱のピアノ伴奏である。それらを見るたびに一抹の寂しさを覚える。実は、私は何も楽器が弾けないのである。【次号に続く】



10月27日(金)文化祭三年学年合唱
スローガン「奏麗共鳴～心をひとつに～」
「さくら(独唱)」「手紙～拝啓十五の君へ～」

【No.281からの続き】「二次方程式」の解の公式に心が躍った。公式に数字を入れさえすれば、誰でも必ず解ける。公式というフレーズに出逢い、少し大人になった気がした。そして「二次関数」との出逢い。初めて本屋で二次関数の応用問題集を購入した。内容は高校生で習う内容だったので、途中から歯が立たなくなったが、その問題集は、「早く高校生になり、もっと数学を勉強したい。」そう私に思わせた。



三年学年合唱指揮者
文化祭前日
最終リハーサル



伴奏者

「温故知新～去年を超えて～」

3年3組 Mさん

文化祭。これは私たち三年生にとって、卒業式を除いて最後になるであろう学校行事だ。その行事が10月27日に幕を閉じた。私たち三年生が全員で取り組んだものは、合唱だ。この合唱はこの一ヶ月でとてつもなく練習をした。一ヶ月前、初めてみんなで歌った時は控えめに言ってもひどかった。だがこの一ヶ月でとてつもなくレベルアップしていき、本番では一ヶ月前と比べることができないくらい成長した。また心境もみんな変わっていき、最初は「なんで合唱なんだよ。」「前みたいに劇がよかった。」と言っていた。正直私もこのような気持ちが心の片隅にあった。

だが当日が近づくにつれ、私たちの楽しさはマックスに



なっていた。その気持ちもあつてか、歌もどんどんうまくなっていった。私は今とても満足している。また他の学年も見て、手に汗をにぎる努力をしてきたんだと思った。

この文化祭を通して体育祭よりもクラスがまとまって、良い思い出になったと思う。このまま卒業式まで走っていきたい。

「知ったまとまることの強さ」

3年2組 Iさん

今年は三年の演劇がない。正直、「何だよ、物足りないな。」と思っていた。小道具を作りたいかったし、クラスメイトの熱演も見たいかった。それを見て笑い合いたかった…。そのような気持ちも文化祭開始数分で遥か彼方へ消え去ったといっても過言



ではない。それほどに生徒会執行部のムービーが面白かった。生徒会長の女装やヤンキー達のケンカのシーンなど見どころばかりで、一瞬も目が離せなかった。

次に楽しかったのが展示物観覧だった。その中でも俳句が日常色あふれるものやクスッと笑えるもの、更には名作まで数多くのもがあって楽しかった。図書室には修学旅行で行った懐かしの友禅染があった。何故かそこには自分のものもあった。他にも素晴らしい作品だらけで、少し、いやかなりおこがましい気がするが、飾られているとうれしい気持ちになるので、素直に喜ぼうと思った。一年生から三回も繰り返してきた文化祭。最初思っていたものと少し違う文化祭だったが、やはり三年生最後の文化祭が一番楽しく、かけがえのないものになった。

これから嫌な勉強一色になっていくけど、今回学年で一つにまとまることの強さを体感したので、前向きにみんなで頑張ろうと思う。



「超最高のフィナーレ」 3年2組 Nさん

体育祭が終わり、みんな疲れもとれてきた頃、ついにやってきた文化祭。三年生の僕たちは「さくら」と「手紙」の二曲を歌うことになった。不安に思うこともあったが、体育祭を乗り越えた最高の仲間たちがいると思うと、不安が消えていった。「僕たちならきっとできる。」そんな期待を胸に練習に臨んだ。だが練習中に近くの人達としゃべっている人や、先生に「静かに。」と言われてもなかなか黙らない人、歌わない人などがいたため、「僕たちならきっとできる。」という期待も崩れていくこととなった。正直あきらめていた。

だが本番数分前にM先生が「分かっていると思いますが、最後の文化祭です。だるそうにしている人たち、歌わない人たち、こんなのが最後でいいんですか？がんばってください。」と僕らに喝を入れてくださった。その喝のおかげで僕はあの頃の「僕たちならきっとできる。」という期待を取り戻した。そして迎えた本番。「さくら」も「手紙」も両方うまくいった。すごくうれしかったが、校長先生の「流石！三年生」という言葉でさらにうれしくなった。最高の思い出になった。喝をいれてくださったM先生には心から感謝を伝えたい。そして学校行事がすべて終わったので、受験をがんばりたい。

